

中 学 校

平 成 4 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

特 別 活 動

東 京 都 教 育 委 員 会

平成4年度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第1分科会	品 川	八 潮 中 学 校	藤 田 知 則
	大 田	大 森 第 十 中 学 校	樋 口 旬 一
	足 立	第 十 中 学 校	酒 井 泰
	葛 飾	新 小 岩 中 学 校	榑 田 和 明
	江 戸 川	清 新 第 一 中 学 校	△相 田 雅 行
	東 村 山	東 村 山 第 六 中 学 校	○宇 賀 神 國 夫
	多 摩	永 山 中 学 校	内 藤 浩
第2分科会	新 宿	東 戸 山 中 学 校	池 田 準
	台 東	蓬 乘 中 学 校	森 田 典 和
	世 田 谷	深 沢 中 学 校	新 色 隆 幸
	板 橋	西 台 中 学 校	◎山 田 貞 明
	練 馬	練 馬 中 学 校	大 友 敬 三
	武 蔵 野	第 六 中 学 校	宮 下 洋
	国 分 寺	第 一 中 学 校	桑 洋
	秋 川	秋 多 中 学 校	大 野 剛

◎世話人 ○副世話人 △記録

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 山 本 修 次

教育庁指導部指導企画課指導主事 山 上 美 弘

研究主題

自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を 身につけさせる特別活動のあり方

目 次

I	主題設定の理由	2
II	第1分科会 「自主的、実践的活動を通して、生徒の自己指導能力を養う学級活動」	
1	副主題設定の理由	3
2	研究仮説の設定	3
3	研究の内容	4
(1)	研究構想図	4
(2)	学級での話し合い活動に関する教師及び生徒の意識調査	5
(3)	話し合い活動を通して自己指導能力を養う観点	7
(4)	話し合い活動を通して自己指導能力を養う指導の実践例	8
4	研究のまとめと今後の課題	12
III	第2分科会 「学校行事(旅行・集団宿泊的行事)を通して、生徒一人ひとりが主体的に判断し、行動する能力を養う指導の工夫」	
1	副主題設定の理由	14
2	研究仮説の設定	14
3	研究の内容	15
(1)	研究構想図	15
(2)	学校行事(旅行・集団宿泊的行事)の「きまり」と「係活動」に対する生徒の意識調査	16
(3)	生徒一人ひとりが主体的に判断し行動する能力を高める指導の実践	
A	「過去の実践例を生かす」指導	17
B	「実行委員会のサポート機関の活動」についての実践例	19
C	「行事当日の評価を実行委員に行わせる」指導の実践例	21
D	校外行事実施後の発表会の開催の工夫	23
4	研究のまとめと今後の課題	24

自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を身に付けさせる特別活動のあり方

I 主題設定の理由

平成5年度から新しい基準に基づいた教育課程が全面実施される。その特別活動の目標には「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。今や国際化、情報化、高齢化、価値観の多様化など、現代社会の変化は目まぐるしく、それに対応する生徒の育成に教育の目標が置かれてきている。また、学校週5日制が導入されることによってますます自主的な生活態度の育成が必要とされ、学校教育における特別活動の果たす役割も大きい。

しかし現実には、学歴偏重の風潮の中、知識重視の画一的な学校教育のもとで、個性が生かされず、集団の一員としての所属感は育ちにくいという指摘がある。人間関係も希薄になり、自分の意見を持たずに周囲に流されてしまう生徒も少なくない。また、高度経済成長により物の豊かさや便利さを得た代わりに、心のゆとりや潤いを失うなど多くの課題に直面するようになった。ここに、教育の重要性を切実に感じるのである。

本年度の研究では、学級活動及び学校行事を通して、集団の一員としての自主的、実践的な態度を養うことを目標とし、研究主題を『自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を身に付けさせる特別活動のあり方』とし、学級活動と学校行事の研究実践から主題に迫った。

第1分科会では、生徒が自ら考え、主体的に判断し、責任を持って行動する能力であると考えられる自己指導能力に注目した。そしてその能力を、話し合い活動を中心とした学級活動において高めようと、副主題を「自主的、実践的活動を通して、生徒の自己指導能力を養う学級活動」とした。

第2分科会では、副主題を「学校行事（旅行・集団宿泊的行事）を通して、生徒一人一人が主体的に判断し、行動する能力を養う指導の工夫」とした。体験的な学習の場である学校行事から旅行・集団宿泊的行事に注目し、その実行委員会のあり方に工夫を加えることで、自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を身に付けさせようと考えた。

Ⅱ 第1分科会 「自主的、実践的活動を通して、生徒の自己指導能力を養う学級活動」

～話し合い活動を中心に～

1 副主題設定の理由

学級活動は、学級を単位として、生徒が学級内に起こる様々な生活上の問題を適切に解決しながら、共に楽しく豊かな共同生活を築くために、自主的、実践的に行う活動である。そうした活動の中で、集団の成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、当面する諸課題の解決を通して、生徒一人一人が意欲的な生活を送れるようにし、学級集団の質的向上を図れるようにするのである。

しかし、現実の学級集団では、当面する諸課題を生徒が主体的に受けとめることが少なく、自分の意見を持たずに周囲に流されたり、人間的なかわりあい避けたり、または自分の考えをうまく言葉で表現できないものが多くなっている。そのため、生徒同士が自主的に話し合い、諸課題の解決に向けた学級集団としての取り組みが成立しにくい状況になっている。

第1分科会では「自己指導能力を、生徒が自ら考え主体的に判断し、責任を持って行動する能力」であると考えた。学級集団成員一人一人が、自己指導能力を高めることができれば、学級集団としての質的向上を図ることができる。そのために本分科会では、自己指導能力を高める一つの方法として「話し合い活動」を中心とした種々の指導を試みることにした。

生徒は、話し合い活動を通して、自分の考えを持ち表現することや、他の人の考えを受け入れることを学ぶことができる。そうした中で、自己指導能力が養われ、当面する諸課題の解決へ向かう態度や、集団生活を充実・向上させていく能力の向上が図られると考え、本副主題を設定した。

2 研究仮説の設定

生徒の自己指導能力を、話し合い活動を通して高めさせていくためには、学級集団の中で、生徒一人一人を、話し合い活動に意欲的に取り組ませる必要がある。そこで本分科会では、「話し合い活動の指導の工夫を図り、生徒が意欲的に話し合い活動に参加し、話し合い活動を活発化・充実化させることを通して自己指導能力が養われる」という研究仮説を立てた。

具体的な研究方法として、学級での話し合い活動に関する教師及び生徒の意識調査をもとに、話し合い活動の方法の工夫、話し合い活動における事前指導（学級活動委員会による生徒の自主的、実践的活動の工夫）、生徒が選んだ活動テーマで話し合い活動を行う授業研究、話し合い活動の事後指導を通して、本副主題に迫ることとした。

3 研究の内容

(1) 研究構想図

研 究 主 題
自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を身につけさせる特別活動のあり方
副 主 題
自主的、実践的な活動を通して生徒の自己指導能力を養う学級活動 ～話し合い活動を中心に～
学級での話し合い活動の現状
○生徒主体の計画的な話し合いができていない ○学級の諸課題について積極的に考えようとしない ○自らの意見を表現できない生徒が多い ○話し合いはするが、学校生活に生かされない ○生徒と教師の間に話し合いに対する意識のずれがある
話 し 合 い 活 動 の 工 夫
○学級活動委員会による自主的な運営 ○意見の表現方法の工夫 ○題材に応じた討論形態の工夫 ○話し合いの結果の理解と評価
授 業 研 究
研究のまとめと今後の課題

(2) 学級での話し合い活動に関する教師及び生徒の意識調査

ア 調査のねらい・時期・方法

学級での話し合い活動の実態と問題点を探るため平成4年7月に質問紙調査を実施した。

イ 調査の対象

教師 都公立中学校15校(研究員所属校)の150名

生徒 都公立中学校 7校(研究員所属校)の704名

内訳 第1学年 243名

第2学年 249名

第3学年 212名

ウ 調査の内容及び結果

<教師対象>

問1 あなたの学級では、意図的な話し合いを月に何回していますか。

① 1回未満……………13.4% ② 1回 ……………55.7%

③ 2回以上……………30.9%

※ 9割近い学級で、月に1回は話し合いをしている。

問2 あなたの学級の生徒は、話し合いの時に良く発言をしますか。

① はい……………41.8% ② いいえ……………58.2%

※ 半数以上の学級で、発言が少ないと感じている。

問3 あなたの学級で、話し合いの議題を出すのは誰ですか。

① 教師……………37.1% ② 学級委員……………37.7%

③ 班長会……………9.6% ④ 決まっていない……………15.6%

※ 4割近い学級で、教師の提案で話し合いを行っている。

<生徒対象>

問1 あなたの学級では、話し合いを月に何回していますか。

① 1回未満……………41.3% ② 1回……………43.0%

③ 2回以上……………15.7%

※ 4割の学級では、月に1回も話し合いをしていないと感じている。

問2 あなたは、話し合いの時、その問題について自分で考えようとしていますか。

- ① はい……………76.9% ② いいえ……………23.1%

※ 8割近い生徒は、自分で考えようとしている。

問3 あなたは、話し合いの時、他の人の意見や説明が分からない場合に、きちんと質問をしますか。

- ① はい……………21.5% ② いいえ……………78.5%

※ 積極的に質問をする生徒は少ない。

問4 あなたは、話し合いの時に良く発言をしますか。

- ① 良くする……………7.5% ② 時々する……………36.4%

- ③ しない……………56.1%

※ 積極的な発言は少ない。

問5 あなたの学級では、生活上の諸問題についての話し合いをした後の様子はどう変わりましたか。

- ① 話し合う前より大きな進歩が見られた……………7.2%

- ② 話し合う前よりは少し良くなった……………65.8%

- ③ 話し合う前と変わらない……………27.0%

※ 話し合いはしたが、その後の生活に生かされないと感じている生徒が、3割近くいる。

エ 考察

① 月に1回も話し合いをしていない学級があったり、話し合いをしていても教師主導になりがちである等、生徒主体の計画的な話し合いができていない。

② 話し合いの議題について生徒は考えようとしているが、発言や疑問点に対しての質問も少ない等消極的である。

③ 話し合いの議題について考えてはいるが発言が少ないのは、意見をまとめられなかったり、表現できない生徒が多いためと考えられる。

④ 話し合いの結果を、自らの問題としてとらえられない生徒もいる。

⑤ 生徒と教師の間に話し合いに対する意識のずれがある。

(3) 話し合い活動を通して自己指導能力を養う観点

漠然と話し合い活動を指導しても、自己指導能力を養うことはできない。そこで、われわれは、以下に示す自己指導能力を養う観点を考えた。題材に応じて、これらの観点からいくつかを重点的に取り上げて、年間を通して計画的、継続的に指導していくことが必要である。

ア 基本的な観点

- | | | |
|----------|-------------|-------------|
| ① 自ら考える力 | ② 主体的に判断する力 | ③ 主体的に行動する力 |
| ④ 表現する力 | ⑤ 行動を評価する力 | |

イ 話し合い活動における観点

	事前	学級活動の時間	事後
生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動委員会を中心に自主的に運営する。 活動テーマの収集と選択を行う。 話し合いのルールを共通理解する。 討論形態を考える。 自分の問題として考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動テーマに応じた討論形態で自主的に話し合う。 他人の意見を聞く。 自分の考えをまとめる。 自分の考えを表現する。 採決方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価をする。 他者による評価や相互評価を行う。 話し合い内容の結果を理解する。 課題を達成する努力をする。
指導援助の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 活動への見通しを持たせる。 指導計画に基づいて、題材を選択する。 題材への興味、関心を持たせ、理解を深める。 学級活動委員会を指導、援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が話し合いに参加できる場を確保する。 話し合いの焦点を明確にする。 自己決定の場を設定する。 話し合いの内容を深めさせる。 話し合いの軌道修正をする。 表現方法の指導を工夫する。 望ましい人間関係に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲、関心を持たせる評価をする。 課題意識を持たせる。 課題を自主的に達成できるように援助する。 必要な生徒に対して個別相談を行う。

(4) 話し合い活動を通して自己指導能力を養う指導の実践例（第1学年、10月実施）

ア 題材名 「学級生活を見直そう」

イ 題材設定の理由

生徒にとって学級は、学校生活の基盤であり生徒が学級内で起こる様々な生活上の問題を適切に解決しながら、共に楽しく豊かな共同生活を築くために、自主的、実践的な活動を行う場である。入学して半年が過ぎクラスの仲間のよい点、悪い点を互いに理解しはじめた反面、クラスの間関係のいざこざがでたり、わがままで身勝手な行動をする生徒がいたり、無気力で周囲に流される生徒もみられはじめた。学級生活を見直すための話し合い活動を通して諸課題について主体的に判断し、行動していく能力を育てるために本題材を設定した。

ウ 指導のねらい

- ① 生徒一人一人が自分の問題として話し合い活動に意欲的に参加する態度を育てる。
- ② 話し合いのルールを理解させ自分の意見を表現する能力を育てる。
- ③ 学級の諸課題を自分たちで解決しようとする態度を育てる。

エ 指導の過程

① 事前の指導と生徒の活動

- ・学級活動委員会を開き、活動テーマと活動の進め方を検討する。
(放課後の学級活動委員会)
- ・学級活動委員会が活動テーマと活動の進め方をクラスに報告し、決定する。(朝の会)
- ・「自分のクラスはよいクラスか・悪いクラスか」をディベート法により話し合い、最後に自分の意見をまとめて書く。(1時間)
- ・学級活動委員会が、各自の意見を学級新聞にまとめる。(放課後の学級活動委員会)
- ・学級新聞を読み、「自分のクラスがよいクラスになるには、これからどんなことに注意すればよいか」一人一人が考え、たんざくに書く。(帰りの会)
- ・たんざくをまとめ、同じ内容ごとに分類する話し合いを行う。(裁量1時間)
- ・司会に見通しを立てさせる。(放課後の学級活動委員会)

② 本時の活動テーマ 「クラスの約束を決めよう」

③ 本時のねらい

- ・人の意見をよく聞き、自分の意見をまとめる能力を育てる。
- ・生徒一人一人を参加させるために小集団による話し合いを自主的に行わせる。

④ 本時の活動

	活動の内容	指導援助の留意点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動委員会が本時の活動テーマを板書する。 司会が今までの経過と本時の活動の予定を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動委員会に、事前に生徒一人一人が書いたたんざくを、4つに分類して黒板に張らせておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〈4つの分類〉</p> <p style="text-align: center;">ケジメ</p> <p style="text-align: center;">うるさい人を注意する</p> <p style="text-align: center;">自分勝手</p> <p style="text-align: center;">人のことを考える</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いのルールを確認させる。 <ol style="list-style-type: none"> 発言者の意見をよく聞く 自分の意見を言う
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> たんざくの4つの分類を確かめ、分類がこれでよいか確認する。 たんざくの内容ごとにグループを作る。 グループごとに意見をまとめる。 グループごとにまとめたものを画用紙に書いて発表し、黒板に掲示する。 全体で意見を聞き、確認しクラスの約束を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認するための時間を十分にとらせる。 各グループが話し合いに適切な形態であるか確認する。 全員が話し合いに参加できているか確認する。 意見をまとめ発言できるように促す。 内容ができるだけ具体的なことになるように助言する。 発言者の意見を十分聞くよう指導する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことをうけて、クラスのためには具体的に何ができるか決意を画用紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを評価し、次に自分の決意を具体的な行動に結びつけられるように意識させる。

⑤ 事後の指導と生徒の活動

- ・学級活動委員会が話し合い活動で、決ったことを模造紙に書き掲示する。

(放課後の学級活動委員会)

＜4つの約束＞

授業と休み時間の気持ちの切りかえをする。

うるさい人を注意する。注意するとき近くの人が注意する。

お互いが相手に対して思いやりをもち、人を傷つけるようなことはしない。

行事のとき一人で勝手な行動をとらないでお互いに協力しあう。

- ・一人一人の決意を書いた画用紙を模造紙に張り、班新聞を作る。(裁量1時間)

オ 評価の観点

- ① 話し合い活動に意欲的に参加することができたか。
- ② 自分の考えをもち、まとめることができたか。
- ③ 話し合いのルールを守り、自分の意見を表現することができたか。

カ 授業後の生徒の感想と変容

＜生徒の感想＞

- ・みんなが一生懸命に話し合いに参加すれば、まとまった意見が出るんだなと思った。
- ・話し合いの中で初めに比べて意見がとて多く出てよかった。
- ・自分では意見は出せなかったけど、他の人からよい意見が出てよかったと思う。
- ・今まで時間をかけて話し合いをただけあって、最後にいい決まりができたと思う。4つに分かれて話し合いをしたときが一番参加できた。
- ・小学校生活から考えてもこういう話し合いはしたことがなかったので、最初のうちは何を言ったらいいのか分からなかった感じ。最初にやったときは反論できなかった。でもだんだん意見が出せてきたのでよかったと思う。
- ・最初は「何なんだろう？」と不思議に思いましたが、今こうやって4つの約束が出来上がるとその意味がよく分かるような気がします。一人一人がクラスのことに関して、すごくよく知っていて、それでこの4つの約束ができたんだと思います。今までの話し合いは有意義に進められたと思います。
- ・いろいろな悪いところが出てきて、自分でできていないと思うことがいくつかあったので、4つの決まりはしっかり守れるようにしたい。
- ・せっかくみんなで話し合ったのだから出た意見を守りたいと思った。

〈生徒の変容〉

初めに行ったディベート法による「自分のクラスはよいクラスか・悪いクラスか」話し合ったときは、3人の生徒がよく発言するだけで、他の生徒は意見を聞き拍手するだけであった。なかには机にうずくまり話し合いに参加しようとしないう生徒もいた。しかし、この題材を通して積極的に自分の考えをもとうとする生徒が増えた。たとえば、席の近い2人が、はじめは同じような意見であったが、自分で考え決意するようになった。

事 前	→	事 後
これからどんなことに注意すればよいか		クラスのためにできる自分の決意
生徒 a : 悪いところを直していいところをもっと伸す。	→	生徒 a : 授業と休み時間の気持ちの切り替えをする。
生徒 b : 悪いところをできるだけ直す。		生徒 b : 合唱コンクールに向けて自分勝手な行動はしないでみんなで協力する。
生徒 c : 自分勝手な行動をしない。	→	生徒 c : お互いが思いやりをもち、人のことを考え傷つけることなどをしてしない。
生徒 d : 自分勝手な行動をとらない。		生徒 d : 授業中もっと静かにする。

また、他の生徒に依存した意見しかもってなかったが、主体的に行動しようとする決意をもつ生徒もみられるようになった。

事 前	→	事 後
これからどんなことに注意すればよいか		クラスのためにできる自分の決意
生徒 e : うるさくしないでほしい。さわがないでほしい。	→	生徒 e : 近くにいる人を注意する。
生徒 f : 授業中と休み時間のけじめをつけてほしい。		生徒 f : いつもうるさくしてみんなに迷惑を掛けているから静かにする。
生徒 g : 授業を静かにうけられるにはどうすればよいか考える。		生徒 g : 自分だけ静かにしても意味がないので、うるさい人を注意する。
生徒 h : だれかがうるさくなったときは、近くの人が注意すればいい。		生徒 h : 授業中に時々プロ野球の話をしてしまうのでけじめをつけてその話は休み時間にする。

生徒 i : 授業中とてもうさいで、だれ かが注意を呼びかければ私語もなく なっていいクラスになると思う。	→	生徒 i : 自分がよく話すので話すのをな くすようにする。あと、自分勝手 にしてしまうところがあるのでみ んなで協力して行きたいと思いま す。
---	---	--

事後の活動で自分の決意を明らかにする班新聞を作成したが、タイトルに「きまりをやぶるな新聞」「ちゃんとやろうぜ新聞」とつける班もあり、自分の決意を改めて確認し自覚させ決まりを守ろうとする意識を高めさせることができた。また、今まで発言をすることが苦手な友達も少ない生徒も班の中で意見を言い、他の生徒に認められ賞賛される場面もあり、以前より活発な意見のやり取りがみられた。

＜事後の活動による班新聞＞

<h2 style="margin: 0;">きまりをやぶるな新聞</h2>			<h2 style="margin: 0;">6班のちゃんとやろうぜ新聞</h2>		
今まで自分勝手にしてたりする人を注意することはできなかったから、これから強んずる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">近くにいる人を注意する</div>	授業と休みの時間の区別がとれない。	授業中も、じっと静かに座る。	気持ちの切り替えをして授業に集中する。	・合唱コンクールに向けて自分勝手な行動はしない。 ・ちゃんと出席をいける。
常にどこでもみんなと同じく授業中はしずかになる。	授業中に時々はボール遊びをしようのつもりで、休みの時間には話をする。	自分勝手に動いたりしない。人のことも考えて行動する。	お互い思いやりをもち、人の事を考えようとする事だ。	休みの時間がお互い勉強の用意をしようとする。	・合唱コンクールに向けて練習し、協力して練習し、声を揃えて練習する。 ・タイム出席をしようとする。

4 研究のまとめと今後の課題

本研究では、生徒自らが考え、主体的に判断し、責任をもって行動する能力である自己指導能力の育成が学級集団の質的向上に不可欠であるととらえ、この自己指導能力を「話し合い活動」の中で高めていくことはできないかという視点で種々の工夫を試みたものである。われわれが生徒に身に付けさせたいこの自己指導能力については、話し合い活動を活発にする指導の工夫により、生徒一人一人が自分の考えをもち、表現することや、他の人の考えを受け入れることを学ぶことにより、養っていくことができることが分かった。

(1) 研究のまとめ

われわれが考えた「自己指導能力を養う観点」のうち、その日の授業で特に重点を置くものを明らかにし、その実現のための工夫をしながら指導を進めていくことが、生徒の変容につながった。

- ①事前に学級活動委員会を中心に活動させることにより、話し合い活動への興味・関心の喚起となった。
- ②話し合い活動のなかで、自己決定の場を多く設定することにより、いろいろな場面で自分の意見をもととする姿勢がみられるようになった。
- ③自分の意見の表現の仕方も、発言させる、紙に書かせる、小グループで意見をまとめさせる、などを適宜盛り込むことで、表現する力の向上が図られた。
- ④自分の意見が発表できると満足感が得られるのか、他の生徒の意見にも耳を傾ける姿勢がみられるようになった。
- ⑤話し合い活動の結果、明らかになった課題を自主的に達成する意欲をもつようになった。

このような生徒の変容は、ともすれば話し合いに関心が薄い最近の生徒が、積極的に話し合い活動に取り組むようになったことの現れであり、さらにわれわれが目指している自己指導能力が話し合い活動の活発化により、徐々に養われてきているということを示していると考えられる。

(2) 今後の課題

生徒は、何回も話し合いを重ねていくなかで徐々に変容していった。われわれが目指した自己指導能力はすぐに身に付くものではなく、長い時間をかけた指導の過程を通じて達成されていくものである。そこで特に次のことが今後の課題として挙げられる。

- ①事前指導～事後指導までかなりの時間を必要とするので、きちんとした目標設定と時間確保の努力が必要である。また、教師があらかじめ年間指導計画のなかに自己指導能力を養う観点を意図的に盛り込む必要がある。
- ②自己指導能力は、いろいろな観点を示されるもので、1回の指導ですべての能力が養われることは不可能である。観点のうち、いくつか重点を置いて計画的・継続的に指導を繰り返す必要があると考える。
- ③自己指導能力は、話し合い活動だけで身に付くものではなく、教育活動のあらゆる場面で養う努力が必要であると考えられる。

Ⅱ 第2分科会 「学校行事(旅行・集団宿泊的行事)を通して、生徒一人ひとりが主体的に判断し、行動する能力を養う指導の工夫」

1 副主題設定の理由

特別活動は、集団の中での自主的・実践的な活動による、体験的な学習の場でもある。学校や学級の生活を明るく豊かにすることができたり、生涯の楽しい思い出を作ることができたりするばかりでなく、学校生活全般にわたって生徒の積極的な意欲を育てるために良い機会となる活動である。しかし、活動内容がマンネリ化したり、生徒自身の創意工夫を発揮させるような指導が十分行えないために、その効果が上がりにくいことも現実である。そこで本分科会では、生徒の自発的な活動を幅広く取り入れられる学校行事のうち、旅行・集団宿泊的行事を取り上げた。旅行・集団宿泊的行事についての生徒の意識調査を実施し、その分析から、①「自分たちで必要なきまりを決め、そのきまりを守る生徒」②「自らの役割を責任をもって果たすとともに協力できる生徒」を本研究の『めざす生徒像』と考えた。そしてどのような指導が効果的であるかを検討した。とくに、生徒の創意工夫を結集できる場であり、活動することの充実感も味わえる場である実行委員会の指導のあり方を研究した。

本分科会では、実行委員会への指導の工夫によって、生徒一人ひとりの活動意欲を高めることができるのではないかと考え、本副主題を設定した。

2 研究仮説の設定

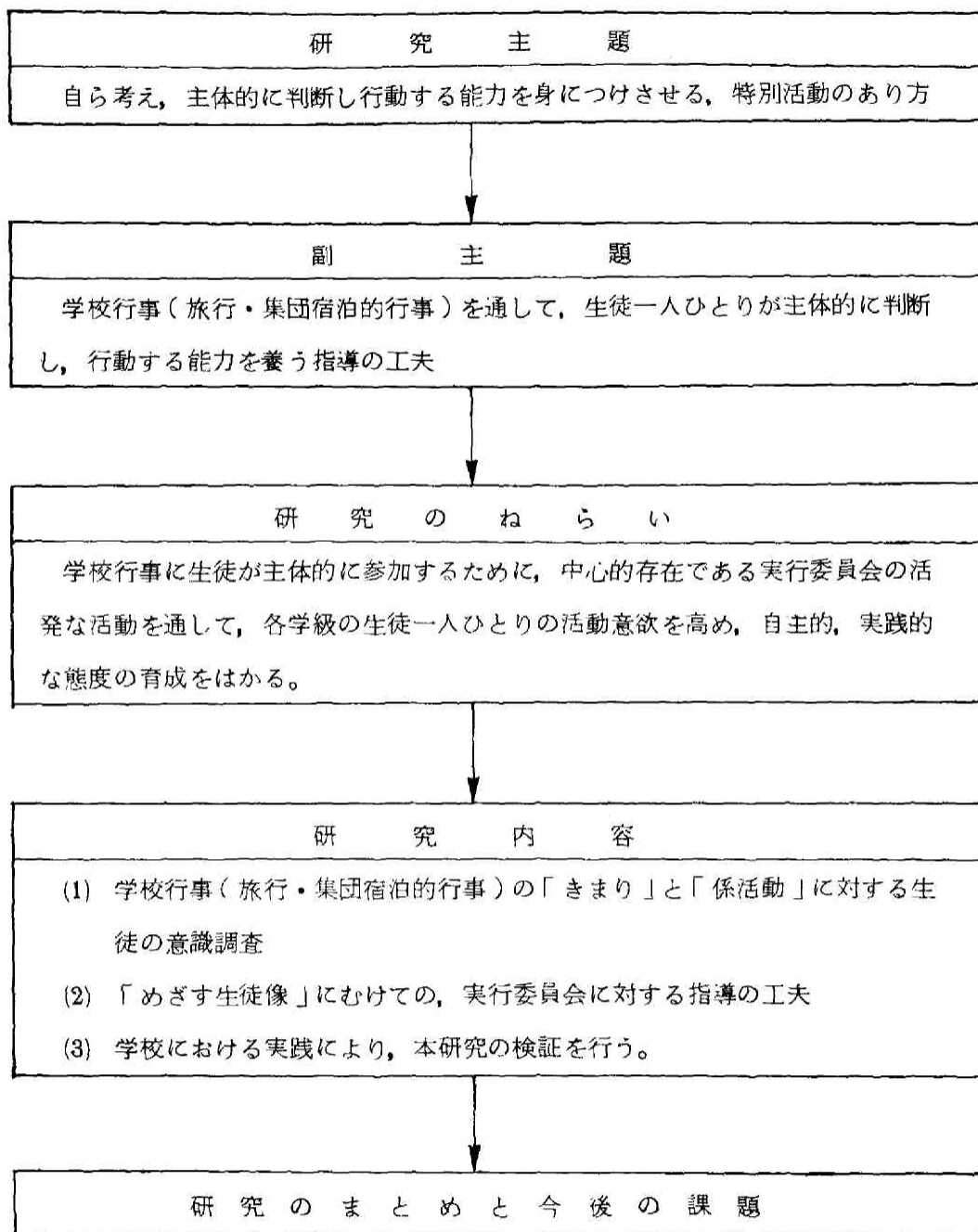
本分科会では、実行委員会の指導に次のような工夫をすることにより実行委員会の活動がより活発になり、充実した学校行事が展開されると考えた。

- ・各行事ごとの評価をきちんと行い、次の行事でのねらいを生徒自身に明確にする。
- ・実行委員から学級の生徒への働きかけを有効にするため、学級に実行委員をサポートする機関を設ける。
- ・事前に精力的に活動した実行委員を、行事当日も教師が忍耐強く指導助言するとともに、実行委員の自主的な活動の場を設定する。
- ・事後に、活動したことを発表する場を設けることにより、当該学年の行事のまとめにするとともに、下級生の次年度の活動の導入とする。

そこで、研究員所属3校での行事の指導に際して、「A過去の実践例を生かすこと、B実行委員をサポートする機関を組織・指導すること、C実行委員が行事当日の評価を行う機会をつくること、D実施後に行事についての発表会を開催すること」を取り入れ、本研究を検証することにした。

3 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 学校行事（旅行・集団宿泊的行事）の『きまり』と『係活動』に対する生徒の意識調査

ア 調査のねらい

- ① 学校行事を進めるうえで、『きまり』に対して生徒はどのような意識を持っているのかを把握する。
- ② 班の係活動に対する生徒の意識を把握する。

イ 調査の方法・対象

方法 質問紙法

対象 都公立中学校 8校（研究員所属校）の2, 3年の生徒 546名

ウ 意識調査の内容と結果

- ① 学校行事での『きまり』は必要と思いますか。 はい 82% いいえ 18%
- ② 学校行事での『きまり』を決めるとき、生徒の考えを入れることは必要と思いますか。
はい 96% いいえ 4%
- ③ 学校行事での『きまり』が決まったとき、自分たちの意見が多く取り入れられたと思いますか。
はい 41% いいえ 59%
- ④ 学校行事での『きまり』を守らなかった生徒に対して憤りを感じますか。
はい 50% いいえ 50%
- ⑤ 1人1役の係活動は必要だと思いませんか。 はい 77% いいえ 23%
- ⑥ 自分の係を進んでしようと思いませんか。 はい 72% いいえ 28%
- ⑦ 班の中で他の係の人に自分は協力したと思いませんか。
はい 64% いいえ 36%
- ⑧ 班の中で自分の係に他の人が協力してくれたと思いませんか。
はい 67% いいえ 33%

エ 考察

以上の結果から、多くの生徒は学校行事における『きまり』の必要性を感じ、生徒自身の考えを取り入れることが必要であると思っている。しかし、決まった『きまり』の内容に関しては、半数以上の生徒が自分たちの意見が取り入れられていないと感じている。

係活動に関しては、多くの生徒が係活動の必要性や協力性が大切であると答えている。

こうしたことから、生徒が『きまり』のあり方を認識し、係活動に積極的に参加するために、生徒の実行委員会を組織し、活動の仕方を工夫をすることによって、『めざす生徒像』に迫ってみようと考えた。

(3) 生徒一人ひとりが主体的に判断し、行動する能力を高める指導の実践

A 「過去の実践例を生かす」指導

(ア) 主題「校外行事の服装」

(イ) 本校の取り組みについて

本校では、教育目標の一つに「自ら考え、進んで実行しよう」を掲げている。この目標を受けて、生徒の活動では、自主自律の精神を培うことをねらいとしている。校外行事での服装といえば、生徒も興味深く考える内容であるが、その決定についてはどうしても教師主導型になりがちである。そこで本校では、生徒自身に考えさせることにより、適切な服装を選び、そのきまりを自ら守っていこうとする態度を身に付けさせていこうというねらいから、1年次から発達段階に応じて、校外行事での服装を生徒自身に検討させている。

(ウ) 指導のねらい

- ① その場に適した服装を考えることができる。
- ② 自分たちで決めたきまりを守りながら実行できる。
- ③ 過去の経験をもとに、次の行事へ生かすことができる。

(エ) 指導の経過

- ・第1学年春の遠足（飯ごう炊さん、フィールドアスレチック）

「服装は何がよいのか」を実行委員会で検討した。

実行委員会で検討 → 各学級での話し合い → 実行委員会で決定（体育着に決定）

- ・第1学年冬の遠足（プラネタリウム見学、都内めぐり）

教師側が服装を標準服に決定し、生徒にその理由を説明した。

<理由>午前中プラネタリウムを学年全体で見学するから（他校も一緒になる）。

- ・第2学年移動教室

初日（登山）と最終日（美術館等見学）は体育着に、宿舎内は自由服に決まった。

<服装が決まるまで>

実行委員会 → 各学級 → 実行委員会 → 各学級 → 実行委員会（決定）

（服装の検討） （服装の決定） （自由服の条件の検討）

↑
自由服にするのなら、一定の条件が必要であることを指導した。

<生徒が決めた自由服の条件>

①新しいものは買わない ②派手でないもの ③汚れても良いもの

<移動教室実施後の問題とその手だて>

① 全体の37%の生徒が新しい自由服を買った。学年集会で実行委員長が、このことを全員の大きな問題として投げかけた。

② 自由服の上着を7着持ってきた生徒がいた。違反ではないが、問題になった。

・第2学年冬の遠足(鎌倉での班別行動)

移動教室と同じ手順で自由服に決定し、条件をつけることが実行委員会で決められた。条件は移動教室と同じ。事前の学年集会で実行委員長が「きまりを守ろう」と呼びかけた。遠足当日、特に違反はなかった。

・第3学年修学旅行

移動教室と同じ手順で服装を検討した。往復は団体行動なので、全員一致で標準服に決定した。宿舎内はくつろげるという理由から、また、班別行動中は活動のしやすさ、体温の調整のしやすさから自由服に決定した。

<生徒が決めた自由服の条件>

①、②は移動教室と同じ ③必要以上に持ってこない→移動教室の反省から決めた条件

<学年集会での実行委員長の話>

時間をかけて、自分たちで服装やその条件を決めた。移動教室ではきまりを守ることができなかった人がいたので、今回はその反省を生かし、全員がきまりを守ってほしい。

<その結果>

新しいものを買った生徒が1人、多く持ってきた生徒でも4着(防寒着を含む)だった。後日の学年集会で実行委員長から、「移動教室の反省を生かし、ほとんどの人がきまりを守れて良かった」と話があった。教師もその点を高く評価した。

(㊦) まとめと考察

新しいものを買った生徒が1人に減ったのは、生徒自身が移動教室での反省に最後までこだわった結果であろう。また、自由服の③の条件も、移動教室の反省を十分に生かした「必要なきまり」とであると考えられる。この生徒の変容は、教師からの一方的な指導ではなく、実行委員を中心とした生徒同志の呼びかけが大きな要因となっている。教師の根気強さも必要だが、失敗を繰り返しながらもその反省を生かし、生徒自身に考える機会を与えることによって、めざす生徒像に近づくことができるのだと考える。

B 「実行委員会のサポート機関の活動」についての実践例

(ア) 実践にあたって

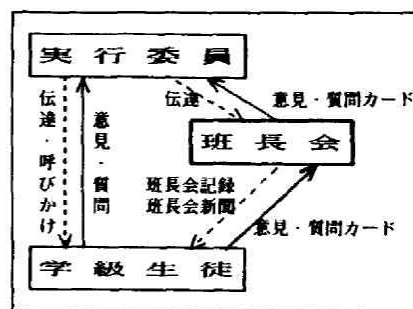
1学年の遠足(班行動による都内めぐり)の実施に当たり、実行委員から学級生徒全員への働きかけを有効にしていくために、実行委員の活動をサポートする機関として学級の生活班による班長会を組織した。

まず班長会を開き、遠足を成功させるために実行委員会と学級の生徒の間に立って何ができるかを話し合わせた。話し合いの中で、実行委員からの連絡事項や呼びかけをもっと班員一人ひとりに浸透させること、また班員の意見や考えを実行委員に伝える方法を考えていくことが必要であるという結果を得た。そこで、班長会が仲立ちとなって実行委員と学級生徒の距離を縮め、生徒全員で遠足に取り組むことにより、行事の成功、さらに班活動の充実をめざした。

(イ) 班長会の活動内容

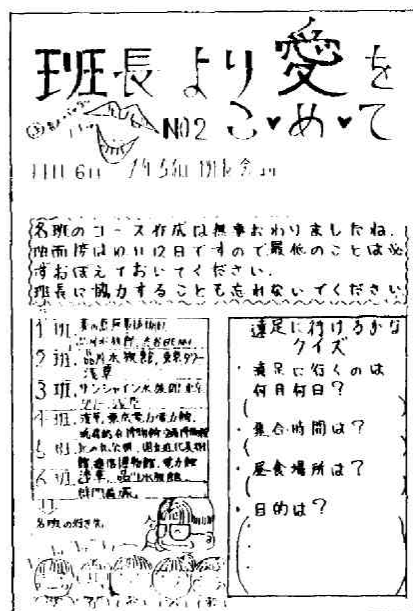
① 班長会の開催

実行委員から遠足についての連絡があるときには、一方的な伝達に終わらせないために、放課後班長会を開き、学級や班の事情を十分に考慮した話し合いを行い、各班でもう一度確認し合うようにした。



② 班長会記録

実行委員からの連絡事項を、もう一度班長会で話し合い、検討した上でそれぞれの班に伝わるように、記録用紙を工夫して作成し、活用した。



③ 班長会による新聞発行

実行委員や班長会からの連絡事項や、各班での話し合いの資料として、また他の班の様子を知るという目的もかねて班長会による新聞を発行した。

④ 意見・質問カード

学級全体での話し合いでは出なかった意見や質問が班長会や班の話し合いで出た場合には、「質問・意見カード」を班長会でまとめ、実行委員に伝えるようにした。

(ウ) 生徒の変容

① 今まで、実行委員の説明や、資料に対して無関心でありがちな生徒が多かったが、班長会発行の新聞や、班長会記録活用による班の話し合いにより、連絡事項（目標・きまり・日程等）の内容について、より理解を深めることができた。また、今まではあまり関心を示さなかった他の班の取り組みや自分以外の係の仕事についても知る機会が増えたため、それらについても認識するようになった。

その結果、遠足全体に対する意識が高まり、活動への取り組みに自分から進んで関わろうとする姿勢も見られるようになり、他と協力しようとする生徒が増えた。

② 班長は、班長会での話し合いにより、お互いに情報を交換し合って他の班の活動状況を知り、それぞれの班の問題点を相談し合ったりすることができた。これは、班活動を円滑に行っていくのに役だったとともに、班長同士のいい意味での競争意識や連帯意識が芽生え、自分の班をまとめていこうとするリーダーとしての自覚を深めることもできた。

③ 今回、日常の学校生活での生活班で遠足に取り組んだが、初めはなかなか班長を中心として全員で協力して活動する状況ではなかった。しかし、遠足での班長会の結成を機に、班長の活躍する場が増え、その仕事ぶりを見て少しずつ班員の意識が変わり、準備段階での取り組みを通して前向きになり、班長に協力できるようになった。

④ 「意見・質問カード」の活用は少なかったが、今まで実行委員からの一方的な連絡がほとんどであったことを考えると、学級生徒から実行委員への働きかけをもっと活発にしていくという点で効果があったと考えられる。

(エ) 考察・まとめ

今までは多くの生徒が、実行委員や班長など一部の生徒にまかせきりで、分からないことがあれば誰かに聞けばいいという傾向が強く、目標やきまり、さらに自分達の班の行動についてもしっかり把握ができていない状態であった。他人任せにするのではなく、一人ひとりが行事や班活動の当事者であるという意識を持たせ、自分から進んで調べたり考えながら目標の達成やきまりの遵守をめざす態度を育てていくという面で、班長会の活用は有効である。

また班長会の活動により、班の話し合いの内容があらかじめ吟味・検討されることで時間の無駄が減るとともに、より充実した話し合いが可能となり、学級での班活動を充実させていく上で一つの指標となった。

C 「行事当日の評価を実行委員に行わせる」指導の実践例

(ア) 指導のねらい

班行動を通して学年集団をのぞましい方向へ向かわせるために、実行委員会の取り組みを通して各班長に自覚を持たせ、実際に行動をおこさせるようにさせた。

(イ) 指導の過程

① 事前指導

I スローガンによるねらいの具体化

「目的を頭に入れて、身をもって行動し、全員が修学旅行を楽しむ」というスローガンの下に修学旅行当日、学年がどのようにまとまり、どう行動したか、3年生の様子を観察するようにさせた。

II 班長会や各クラスでの呼びかけ

実行委員から班長会で班長、及び各クラスで生徒一人ひとりに考えを伝えさせる。

III 班長会10分前会議(実行委員による会議)の練習

実行委員の立場から考えて、できるだけ具体的な例を示し修学旅行当日の全体行動や班行動がどうであったのか話しができるように事前練習を行った。また、自分がなぜそう考えるのかその理由もいえるようにした。

IV 反省会(班長会)の司会とまとめを話す委員の指導

- 反省会の流れの計画……各班の反省を各クラスごとに発表させる→特に問題になるようなことならについて班長たちの意見を求める→実行委員会のまとめの意見を伝える。
- シミュレーション練習……司会とまとめを話す委員とで“班長中心に班行動が非常にうまくいっている班が多かった場合”や、“きまりを守らない生徒がたくさんいた場合”、“班員がはぐれ班がばらばらになって行動していた場合”等、様々な場面を想定して司会とまとめを発表させる練習を行った。

② 修学旅行当日

I 第1日目

- 班長会10分前会議……多くの班は計画に沿って班活動を行っていた。班のまとまりも大部分は良かった。各係とも自分達の役割をきちんと果していた。特にコース系の活躍が素晴らしかった。一方、服装、持ち物、ガムやあめなどのきまりを守れない生徒もいた。
- 反省会(班長会)……各班の反省をクラスごとに発表したが、きまりを守れなかった者がかなりいたことが報告された。このことについて、「班長としてどう考えたらよいのか、

どうしたらよいか、」話し合わせた。多くの班長が、「とにかく班長が注意しよう！」という方向でまとまった。最後に実行委員会の代表が反省と班長たちの意見を集約して、以下のようなまとめを発表した。

「修学旅行第1日目の全体行動や班行動はおおむね成功している。班のまとまりも深まっているし、係の仕事も熱心に行っている人が多い。しかし、あめやガムなど持ち物のきまり違反が目立った。明日は1日班行動なので班長がしっかりと班の中心になって班をまとめていってほしい。あそび気分でなく、けじめのある行動がとれ、よい思い出となるようにがんばってほしい。」

ii 第2日目

- 班長会10分前会議……前日と比べ班のまとまりがとてよくなったことや班行動が滑らかになった。班長が自主的に行動するようになった。
- 反省会(班長会)……各クラスの反省では全体的に、前日に比べ班のまとまりやきまりを守ることが十分にできたことや各係の仕事も順調に進んでいたことなどが報告された。また、「班員が身勝手な行動をしていたので注意した」ということも報告された。最後に実行委員の代表が反省と班長たちの報告をまとめ終わった。

(ウ) アンケートによる意識調査とまとめ

① アンケート結果

- i 修学旅行第1日目の夜の班長会で、実行委員会の反省がありましたが、この反省が第2日目の班行動(FW)のなかで、あなたが班長をやっていて何かに生かされたと思うことはありますか。

◇生かされたと思う・23人 ◆生かされていないと思う・11人 ☆わからない・1人

- ii 5月に実施した鎌倉遠足と比べて班のまとまりやきまりの徹底はよかったですか。

◇よかったですと思う・27人 ◆よくなかったと思う・6人 ☆わからない・2人

② まとめ

アンケートで、班行動の目的が達成されたという班がたくさんあったという結果が得られた。その結果、この実践によって班長たちの自覚が促され、自信をもって行動していくようになったといえる。一方、第1日目では浮ついた気持ちが先に立ち目的を達成するために班のまとまりやきまりを守ることの大切さに気付かなかった生徒たちがいたが、2日目に班長たちが懸命に班をまとめていこうと行動している姿を見て、進んで協力していく様子がみられた。実行委員全員の感想によっても、指導のねらいはほぼ達成したと思われる。

D 校外行事実施後の発表会の開催の工夫

(ア) 主題「修学旅行をもとにした文化祭での舞台発表」

(イ) ねらい

- ① 文化祭で修学旅行での実践を発表し、自発的・自治的な取り組みの成果を再認識させる。
- ② 1・2年生に修学旅行のイメージを描かせるとともに、3年生として、後輩たちへこれからの学校生活における心構えなどを伝える。

(ウ) 方法

- ① 文化祭での1コマとして、発表会をする。
- ② 修学旅行実行委員会を中心に、25名ほどの製作班を編成し、代表者が発表を行う。

(エ) 内容

修学旅行当日の活動の様子を8ミリに収め、それを映写しながら解説をつける。さらに、見学地についての理解を深めさせるためにOHPやスライドを用いる。また映写の途中にナレーターを入れ、旅行中のエピソードを語る。

(オ) 実施後の生徒の感想

- ・発表を見て、こんなに楽しい修学旅行ができて、自分たちは幸せだと思った。他校の生徒にも自慢できる。(3年女子)
- ・1・2年のときの映像が写ったが、そのときの経験を生かすことができたから、修学旅行が成功したと思った。(3年男子)
- ・先生方が私たちのことを信頼して下さったから、班別行動をすることができたり、いろいろなきまりを決めることができたのだと改めて感じた。(3年女子)
- ・実行委員の頑張りが修学旅行を成功に導いたと分かった。(3年男子)
- ・発表を見て、集団生活のきまりを守ることの大切さを感じた。(2年女子)
- ・これからは、自分勝手なことをしないで、誰とでも協力し合うことができなければ、修学旅行には行けないと思った。(1年男子)

(カ) 考察

実施後の感想から、1・2年生に3年生の意図することを十分に伝えられたと考える。また、3年生は自分たちの成長を感じ取り、これからの生き方にも目を向けさせることができる。3年間を見通した行事における実行委員会への指導・援助によりその成果を発表するに至ったと思われる。

4 研究のまとめと今後の課題

(1)研究のまとめ

本研究では、学校行事を通して生徒一人ひとりが主体的に判断し行動する能力を身に付けることを研究のねらいとして進めてきた。

まず、学校行事に対しての生徒の意識を知るために、アンケートを実施してみた。この調査における内容は、「きまり」や「係活動」に関する、ごく基本的なものであったが、その結果からは生徒達は本質的には行事内でのきまりや、一人ひとりの役割は必要であると感じているようだった。

しかし、お互いを高めていく態度をみると、かなり弱い傾向があり、主体的に行動し、集団としての活動レベルを高めていく上では、指導の工夫が必要であることが認められた。

そして、研究を進めていく中で、次のような工夫と実践がこれからの学校行事（旅行・集団宿泊的行事）を進めていく上で有効であることが分かった。

①学校行事においては、実践例Aのように過去の行事を十分にふり返らせることにより、事前に行事のねらいを認識する上で大変効果的であった。また、実践例Dでは修学旅行発表会が実施され、生徒が行事での自主的な取り組みの成果を再認識する上で効果があった。

②実行委員会の活動は、ややもすると他の生徒の活動（班長会等）との連携が十分にとられていない傾向があり、その点を改善するには実行委員会のサポート機関を組織し、行事のねらいが一般生徒に浸透するように工夫しなければならない。実践例Bでは班長会との連携に重点を絞って実践したが、一般生徒の活動意欲を高めるという点で効果が見られた。

③実行委員会の活動は、事前のものに集中しがちであるが、行事のねらいを十分に達成するためには、行事当日の活動内容の検討と実践が必要である。実践例Cの修学旅行中の反省会での取り組みはアンケート調査の結果から、有効であることが分かった。

(2)今後の課題

①今回の研究では実行委員会への指導の工夫が中心であったが、生徒一人ひとりへの指導の工夫も必要である。

②新教育課程の中での指導時間の確保と、より能率的で効果的な指導を工夫していかなければならない。

③生徒が主体的に判断し行動する能力を身に付けることを目標とした行事の精選を検討し、より有意義な学校行事を実施していかなければならない。